

あてつまんさく

新見の農業情報

普及だより 2020年



備中県民局 農林水産事業部
新見農業普及指導センター

目 次

1 担い手の確保と育成

- (1) 就農希望者の確保と地域で支える新規就農者の育成 1
- (2) トマト営農団地での新規就農者の育成 1

2 栽培技術の紹介

- (1) スマート農業で水稻栽培の省力化! 2
- (2) りんどう産地の取組について 3
- (3) 夏秋トマトの収量アップに向けて新品種を試験 4
- (4) いちご苗の安定生産・供給に向けて 4
- (5) シャインマスカットの房形向上 5

3 普及活動の情報

- (1) 白小豆の産地復活プロジェクト 5
- (2) 農業経営改善への取組を支援しています 6
- (3) 夏期における畜草2号の効果を検証しました 7
- (4) 6次産業化実践のために～加工技術と食品表示を学ぼう～ 8
- (5) ももの長期安定出荷に向けて 8

4 新型コロナウイルス感染症対策

- (1) コロナ禍の中での普及指導活動 9
- (2) コロナ禍の中での講習会での取組 9

5 今年輝いた人

- (1) 第53回 岡山県農林漁業功労者表彰 10
- (2) 令和2年度 岡山県シャインマスカット、マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会 . 10
- (3) 第59回 岡山県枝肉共進会 10
- (4) 令和2年度 新見市ピオーネ共励会 11
- (5) 令和2年度 新見市桃共励会 11
- (6) 令和2年度 新見市花卉共進会 11

表 紙 写 真

左 上 : ラジコン草刈機

右 上 : 茶の栽培指導

中 央 : ぶどうの若手勉強会

左 下 : 就農準備講座 (トマトコース)

右 下 : 新見を代表する赤い桃

■1 担い手の確保と育成

(1) 就農希望者の確保と地域で支える新規就農者の育成

新見地域では、毎年、就農相談会（岡山市、東京、大阪）に参加していましたが、今年度は、新型コロナウイルスにより、オンラインを活用した相談会で就農希望者の確保に努めました。

参加者からは「オンラインでも不都合はない。県外からも気軽に参加できるのでよかった。」といった声がありました。

この相談をきっかけに新見市を訪れて現地見学をされた方もいました。

また、普及指導センターでは、関係機関と連携して就農5年目までの新規就農者を経営・技術面で個別指導しています。

今年度、実務研修を修了した3人（ぶどう2人、トマト1人）が就農しましたので地域の皆さん、生産者の皆さんのご支援をお願いします。



オンラインを活用した就農相談



新規就農者のほ場巡回

(2) トマト営農団地での新規就農者の育成

新見市北西部の神郷高瀬にトマト営農団地（耕地面積1.2ha）が整備され、平成29年から1戸の新規参加者が営農を開始しています。今年度からは、団地内にある農協のハウスで研修を受けていた新規参加の1名と市内在住の1名が営農団地内と地元で営農を開始し、さらに次年度からも市内在住の1名が地元で栽培を開始する予定となっており、営農団地を核とした担い手の育成が着実に進んでいます。

営農団地は、岡山県農業士でもあるトマト部会長のほ場と隣接しており、新規就農者はいつでも栽培などについて相談ができます。また、農協のハウスを借り受ける形で就農でき、初期投資も抑えられます。普及指導センターでは、トマト部会、農協、市と連携して、就農前の相談対応から、経営計画の作成支援、基本技術修得のための就農準備講座の開催、就農後の巡回指導など、新規就農者の定着と育成を支援しており、今後も一人でも多くの担い手が育成できるよう、活動を続けていきます。



育苗の状況を聞き取る普及指導員

■2 栽培技術の紹介

(1) スマート農業で水稲栽培の省力化！

スマート農業とは、ロボット・AI・IoTなどの先端技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産などを実現する新たな農業のことで、農業の現場の課題である担い手の高齢化や労働力不足への対応策として注目されています。新見地域の水稲栽培では、農薬散布用ドローンやラジコン草刈機などのスマート農業技術が普及拡大してきており、特にラジコン草刈機については、中山間地で重労働な畦畔の草刈りを省力化できる技術として、高い関心がもたれています。

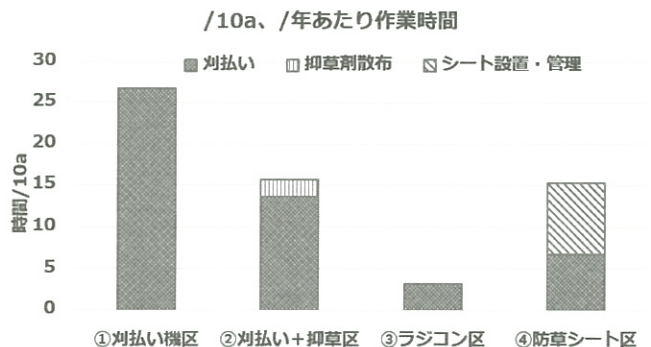
このような中、普及指導センターでは今年度、畦畔を①刈払い機、②刈払い機と抑草剤、③ラジコン草刈機、④防草シートの4パターンで管理し、作業時間などを計測する試験を行いました。結果としては、10aあたり作業時間は①6.8時間、②7.8時間、③0.8時間、④8.6時間となり、ラジコン草刈機の省力効果の高さが実証されました。高い導入コストなどとのバランスをとることは不可欠ですが、導入した農業者からは、「作業が楽になった。また、ゲーム感覚で草刈りができ、楽しい農業が実践できている。」との声が聞かれました。

また、スマート農業技術の実演会を3回開催しました。内容は、ドローンで撮影した画像データを分析することで水稲の生育状況を可視化する技術や、収穫しながら収量や食味（タンパク値）が確認できるコンバインなどを紹介しました。

普及指導センターでは、今後とも、スマート農業などの研修会や技術実証などを通じて、省力技術の普及による規模拡大、良質な米の生産を支援していきます。



ラジコン草刈機での草刈り作業



10aあたりの作業時間



ドローン実演会



収量・食味コンバイン実演会

(2) りんどう産地の取組について

① 新見プレミアムりんどうシリーズ第一弾「奥の秋風」リリース！

新見地域は西日本一のりんどう産地（25戸が4ha）ですが、独自のオリジナル品種がありませんでした。そこで、花卉部会では、平成27年からササ系りんどうの育成を開始し、新見りんどうのブランド化に取り組んできました。

りんどうの品種には主にエゾとササの2系統があり、エゾ系りんどうは花の先端がわずかに開いた状態で開花となりますが、ササ系りんどうは花卉が反り返るように開花します。岡山県北部にはササ系りんどうが自生しており、これらの遺伝資源を元に交配し、花卉色や開花の様子、生育の揃いなど様々な項目で評価し、有望株を新見オリジナル品種として育成しました。

満を持して今年初出荷を迎えた、新見プレミアムりんどうシリーズの第一弾は「奥の秋風」と命名されました。最上部の花の数が通常の2～3倍とボリュームがあり、趣深い花色が特徴です。

今年は6戸が栽培し約2000本を出荷しましたが、市場でも高評価で引き合いが多かったため、来年度には栽培面積を拡大する予定です。



「奥の秋風」の開花の様子



秋を連想させる花色

② りんどう加工品についての取組

花卉部会では、平成24年からりんどう染めに取り組んでおり、9年間研究を重ねた結果、色落ちしにくい染め方を確立することができました。購入できないかと尋ねられることもあり、販売について検討しています。また、形や色合いはそのまま、まるで生花の様なドライフラワーの作成にも成功し、りんどうの新たな可能性について検討しています。

普及指導センターでは栽培指導や病虫害対策の他、これらの取り組みの支援を行っています。りんどうなど花きの栽培に興味がある方はぜひ、普及指導センターまでお問い合わせください。

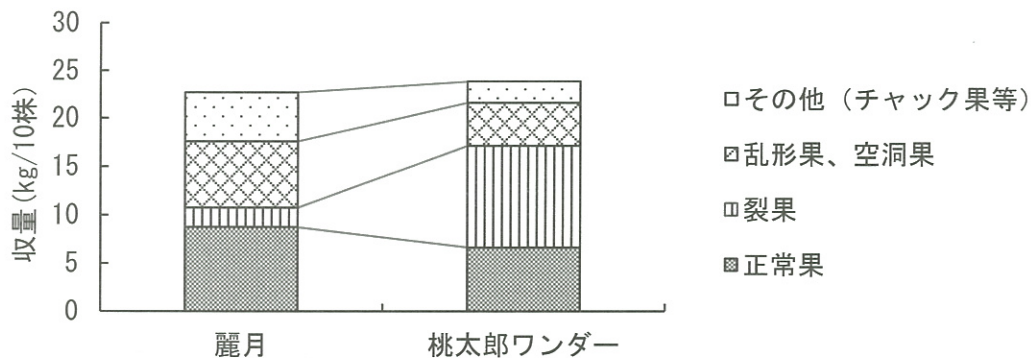


ドライフラワーを使用したブローチ

(3) 夏秋トマトの収量アップに向けて新品種を試験

新見地域の夏秋トマトでは、桃太郎系の品種を栽培していますが、令和元年から他県の産地で導入が進んでいる「麗月」の実証・調査を行っています。

昨年度の調査では、「麗月」は安定的に着果し、また、裂果が少ないため秀品率が高い結果となりました。今年度は7月の日照不足、8月の高温により着果不良や裂果が発生しやすい気象条件でしたが、「麗月」では昨年度と同様の特徴を確認することができました。しかし、平均1果重が小さいなどの課題も見られたので、引き続き栽培管理などの検討をしていきます。



正常果と不良果の収量

(10月29日までに収穫したもので病果は除く)

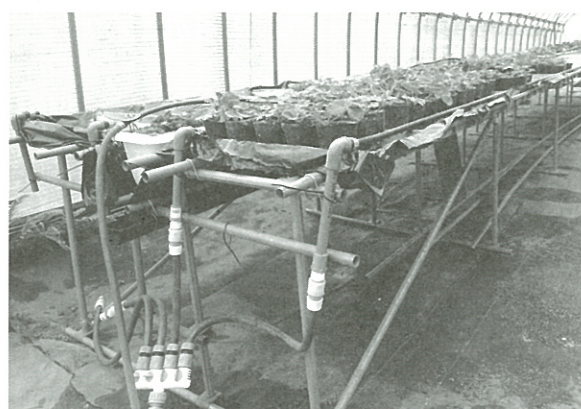
(4) いちご苗の安定生産・供給に向けて

令和元年10月に新見市いちご研究会が、岡山県から許諾を受けて、四季成り性いちご品種「岡山 STB 1号」の苗生産及び販売ができるようになりました。

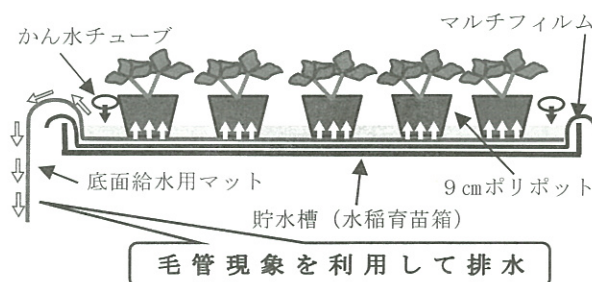
「岡山 STB 1号」は、岡山県農林水産総合センター農業研究所が県内の高冷地向けに育成した、6～11月に収穫でき、夏場でも大きい果実が収穫できる耐暑性の強い品種です。

研究会では、良質な苗の安定生産と供給のために、愛媛県農林水産研究所で開発された、炭疽病の伝染を抑制できる底面給水システム（愛媛農水研方式）を活用した育苗を実証しています。この方式は、水稻育苗箱や底面給水用マットなどの市販製品を用いて、安価で組み立てが容易な小面積での育苗管理が可能とされています。

苗（親株）の安定供給に取り組んでいますので、栽培に興味がある方は、普及指導センターまでお問い合わせください。



底面給水システム



(5) シャインマスカットの房形向上

「シャインマスカット」は、新見地域の主力品種「ピオーネ」に続く品種として、栽培面積出荷量とも毎年増加しています。全国的にも生産が伸びて産地間競争が激化しており、今後は高品質なシャインでなければ、高価格の実現が難しくなることが予想されます。

求められるシャインは、美味しいこと（糖度18度以上）に加えて、果房形や果粒の大きさが揃っていることが重要です。樹が成木となり、品質や生産量が安定してきたら房づくりに注力しましょう。シャインの房づくりでは、順調な糖度上昇と輸送時の事故を軽減するため、果房重625～834g（7房～8房／5kg）で果房の肩部や先端に隙間のないものを目標とします。

房づくりでは、満開1週間後頃に一度肩の位置を切り下げることが重要です。なるべく先端で房づくりを行うことで大房が回避でき、果房の大きさが揃い、房形が向上します。



花穂先端での房づくり

シャインマスカットの満開1週間後肩部切下げが房形に及ぼす影響

	5kg箱詰め房割合(%)			果粒重 (g)	粒揃い (1～5 ^x)	空き粒数(粒)		外観評価 (1～5 ^x)
	8房	7房	6房			肩部	先端	
肩部切り下げ区	25	75	0	18.2	4.4	0.8	0.3	4.2
無処理区	18	45	36	18.3	3.8	1.4	0.7	3.8

x：目視により5段階評価（1:不良～2:やや不良～3:中～4:やや良～5:良）

■3 普及活動の情報

(1) 白小豆の産地復活プロジェクト

新見地域は、かつて小豆の大産地でしたが、高齢化や作業負担などにより面積が激減しています（2015農林業センサス：新見市5ha）。しかし、新見地域の小豆は赤白ともに実需者からニーズが高く、特に白小豆は高級和菓子の材料として人気があります。

新見地方新農業経営者クラブは、白小豆産地の復活のため、平成28年に岡山県が育成した、在来白小豆より収量性がよい「備中夢白小豆」の生産拡大を進めており、本年度は主に哲多支部（哲多すずらんクラブ）員を中心に、2.7haを作付けました。

また、クラブの共同管理ほ場においては、収量向上のための追肥や軽量細身で設置しやすい支柱を使った電気柵によるイノシシ防護効果の確認などの試験を行い、良好な結果を得ることができました。

今後は、白小豆を使った菓子類の開発に取り組むなど、クラブ員とともに新見地域の白小豆の生産拡大を推進します。



備中夢白小豆



クラブ員による除草作業

(2) 農業経営改善への取組を支援しています

農業経営改善に取り組むというと、堅苦しいイメージがありますが、「今年から収益を上げよう」とか「作業を楽にしよう」といった身近な目標に向かって対策を立て、実行していくことが、農業経営改善です。普及指導センターでは、様々な目標を持った皆様の農業経営改善への取組に対し、支援しています。

① 認定農業者の確保（経営改善計画書作成支援）

認定農業者制度は、5年後の経営を目標に生産方式、作付面積などの経営改善計画書を作成して、新見市へ申請し認定を受けるものです。経営手法、改善内容は自由ですが、市の基本構想にある農業所得と労働時間の目標が達成できる内容を盛り込む必要があります。

認定農業者になると、経営所得安定対策への加入、制度資金の有利な借入、農業者年金の保険料補助などのメリットが受けられます。デメリットは特にありませんが、5年目までに目標が達成できるよう努力する必要があります。

計画書を作成することで、現状把握ができ、目標がはっきりすることから、効率のよい経営を実践することができます。



認定農業者パンフ

② 農業経営改善のための研修会の開催

経営改善に役立つ知識や技術を習得するための機会は少ないと思います。そこで、普及指導センターでは、税理士、社会保険労務士などの専門家や普及指導員を講師とした研修会を毎年開催しています。今年度は、労務管理、税務、パソコン簿記の3講座を開催しました。

この他にも希望する研修内容がありましたら、お知らせください。

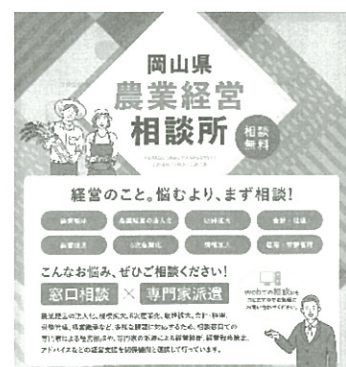


労務管理研修

③ 農業経営相談所の活用

経営に関連した相談を無料でできる岡山県農業経営相談所がオープンしています。経営改善だけでなく、経営継承や法人化、販路拡大、経理の方法、6次産業への取り組み、雇用を入りたいなど、まだ考えている段階からでも相談できます。また、専門家の派遣による重点指導も受けられますので、普及指導センターまでお問い合わせください。

以上、農業経営改善に向けた様々な支援を行っていますので、不安に思っていることや将来のことで相談したいことなど、いつでも普及指導センターへ御連絡ください。



経営相談所チラシ

(3) 夏期における畜草2号の効果を検証しました

新見地域ではWCS用稲収穫機が令和元年度から大型機のみとなり、市内で流通している稲WCSロールも直径100cmと大型化しています。市内の大規模肉用牛農家では、大型稲WCSロールを年間通じて給与していますが、小規模肉用牛農家では一度に少量しか使用できず、開封後腐敗して、丸ごと廃棄する事例もあり、対応策について備中県民局畜産第二班へ相談が寄せられていました。

備中県民局畜産第二班では、稲WCSの添加剤である畜草2号を添加したロールと添加しないロールの夏期における発酵品質の比較と腐敗状況の観察を行いました。その結果、畜草2号を添加したロールでは、添加しないロールに比べて乳酸及び酢酸含量が高く、10日以上屋外に置いても腐敗しませんでした。（平均気温24.5℃）

畜草2号は稲WCS専用品種に利用することで、乳酸発酵を促進しながら適度に酢酸などの有用物質を生産し、カビや酵母の増殖を抑制できる乳酸菌です。結果から、畜草2号を添加することで、小規模肉用牛農家でも大型ロールを使用ができることがわかりました。

今後は、この検証結果を広く周知し、鮮度が保持される稲WCSロールの広い流通を推進していきます。

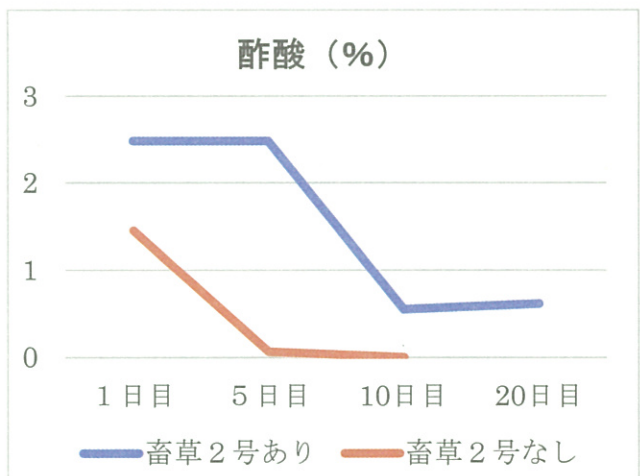
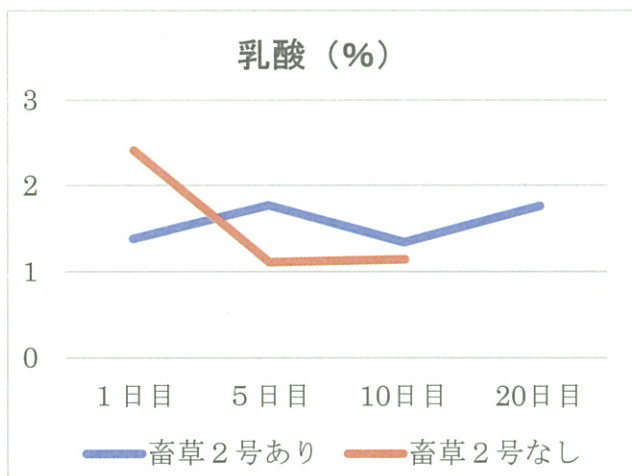


畜草2号なし



畜草2号あり

開封10日後の腐敗状況



稲WCSの発酵品質

(4) 6次産業化実践のために～加工技術と食品表示を学ぼう～

普及指導センターでは昨年に引き続き、農業生産から加工販売まで取り組む「6次産業化」に関心ある農家の方々を対象に研修会を開催しました。

—食品加工研修（8月6日）—

食品加工研修では、桃の瓶詰の実習を通して衛生面での注意点や品質を一定にするための方法を学びました。参加者は、原材料の洗浄方法や殺菌のための時間と温度の設定方法など自家用との違いを実感しました。



桃瓶詰加工実習

—食品表示研修（10月14日）—

食品表示法の改正を受け、原材料原産地表示が義務化されるなど食品表示の内容は、変化しています。参加者は、地元直売所に出荷している人が多く、研修会で学んだことを活かしていきたいという感想が聞かれました。



食品表示研修会

普及指導センターでは、今後も関係機関と連携しながら地域の6次産業化を推進していきます。

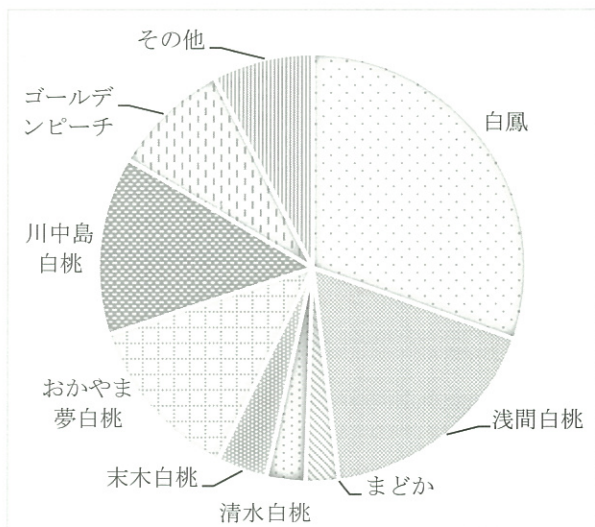
(5) ももの長期安定出荷に向けて

長梅雨、大雨、猛暑など近年は異常気象が当たり前になってきました。そんな中、阿新桃部会では、ももを長期間、安定して出荷して所得を得るために晩生品種を推進しています。

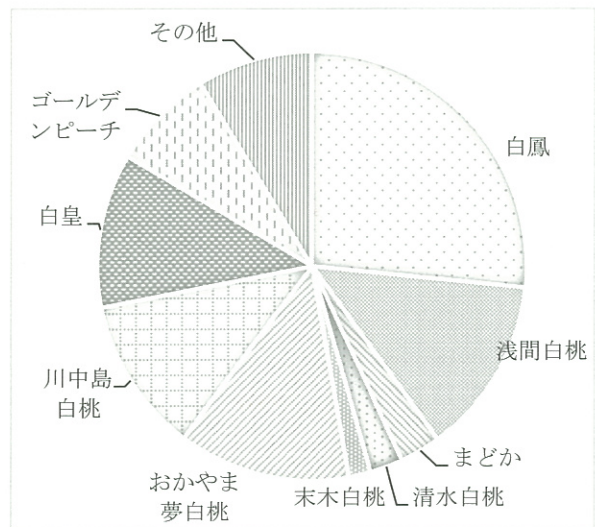
今までは、白鳳が3割を占めていたため、ももシーズンのうち、7月中旬から8月下旬に出荷が集中し、異常気象の影響を受けやすくなっていました。

取組の結果、白皇の仲間入りや、おかやま夢白桃の栽培面積の増加により、白鳳の割合が1割程度減少しました。

普及指導センターでは、今後も異常天候に負けないももづくりを支援していきます。



平成28年の品種構成



令和2年の品種構成

■4 新型コロナウイルス感染症対策

(1) コロナ禍の中での普及指導活動

新型コロナウイルスの感染は国内では1月16日に、岡山県内でも3月22日に確認され、以降、感染者数が増加傾向となっており、あらゆる分野に深刻な影響を及ぼしています。

農業施策では、農業者や集出荷施設の作業員などの感染を防止し、事業を継続するためのガイドライン策定や、事業継続補助金、持続化給付金などの支援策が打ち出されました。

普及指導センターは、直接農業者と接する業務が多いことから、感染防止のため、特に慎重な対応が求められ、以下の取り組みを行っています。

技術者連絡協議会、担い手育成対策協議会、農業士会などは総会を中止して書面決議としました。講習会や研修会については、就農準備講座は、予定を繰り下げて5月からの開催とし、各生産組織の栽培講習会などは、三密を避けるためJAと協議し、4月、5月は原則屋外での開催としました。行事などでは、マスク着用をお願いし、三密の回避、時間短縮、内容の簡素化など感染リスク低減を図っています。非接触型温度計、アルコール消毒液、マスクなど感染防止グッズも整備しました。就農相談業務はオンラインで行うなど、新たな手法も取り入れています。



研修会前の検温

(2) コロナ禍の中での講習会での取組

普及指導センターでは、ぶどうやもも、トマト、りんどう、水稲といった作目を対象に定期的に栽培講習会を開催しています。ところが、今年度は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が国内、岡山県にも拡大し、4月16日には緊急事態宣言が発出されました。従来は、各地域の公会堂など屋内に集まって講習会を行っていましたが、「3密」を避けるため、県内各産地の講習会が中止となりました。

コロナへの対策を打つ中であっても、情報共有の場は必要です。そこで阿新桃部会では、JAの指導員と分担して少人数制の青空講習会を開催しました。会場には、各生産者の園地をさせていただき、資料の説明の他にその場にあるももの樹を使って着果管理などの講習を行いました。生産者からは、「集合の講習会では、自分の樹と見比べるとわかりにくいところがあったが、今年は自分の樹を見ながらの指導でわかりやすかった。」との声が寄せられました。

普及指導センターでは、今後も感染防止策を徹底して、農産物の高品質安定生産を支援していきます。



着果管理について指導

■5 今年輝いた人

※敬称は省略させていただいております。

(1) 第53回 岡山県農林漁業功労者表彰

◎岡山県農林水産部長表彰（農産部門） 神山 順一（足見）

(2) 令和2年度 岡山県シャインマスカット、マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会

令和2年7月、9月、10月に作型に合わせて開催され、シャインマスカット168点、マスカット・オブ・アレキサンドリア18点の出品がありました。JA晴れの国岡山新見統括本部阿新ぶどう部会からは12点（シャインマスカット）の出品がありました。

【シャインマスカットの部】

◎農林水産大臣賞 清原 保（豊永）
◎岡山県農業協同組合中央会会長賞 古川 大輔（草間）
◎奨励賞 うまいくだものづくり推進本部長賞 長濱 健一（草間）

(3) 第59回 岡山県枝肉共進会

令和2年12月3日、岡山県営食肉地方卸売市場で開催されました。県内各地から和牛70点、肉豚30セットが出品されました。

◎第1部（和牛去勢の部） 最優秀賞5席 (有) 哲多和牛牧場（哲多）
最優秀賞6席 (有) 哲多和牛牧場（哲多）
最優秀賞7席 (有) 哲多和牛牧場（哲多）
最優秀賞10席 (有) 哲多和牛牧場（哲多）
◎第2部（和牛雌の部） 最優秀賞4席
JA晴れの国岡山 千屋肥育センター（千屋）
◎第3部（肉豚の部） 最優秀賞2席
岡山JA畜産（株）荒戸山SPF農場（哲多）
最優秀賞3席
岡山JA畜産（株）吉備牧場（哲多）
最優秀賞4席
岡山JA畜産（株）荒戸山SPF農場（哲多）
最優秀賞5席
岡山JA畜産（株）荒戸山SPF農場（哲多）
最優秀賞6席
岡山JA畜産（株）吉備牧場（哲多）

(4) 令和2年度 新見市ピオーネ共励会

令和2年9月18日にAコープあしん生活センターホールで開催され、65点の出品がありました。平均粒重は19.9g(最高24.4g)、平均糖度は18.5度(最高20.0度)でした。

◎最優秀賞	岡山県知事賞	浅田 裕基 (豊永)
◎優秀賞	新見市長賞	安達 利延 (哲多)
	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞	長嶋 好伸 (豊永)
	岡山県農業協同組合中央会長賞	田中 邦男 (豊永)
	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	加藤 伸夫 (豊永)
	岡山県農業共済組合長賞	吉岡 尊司 (豊永)

(5) 令和2年度 新見市桃共励会

令和2年7月21日にAコープあしん生活センターホールで開催され、27点の出品がありました。平均糖度は11.8度(最高15.3度)で、全体的に甘み酸味のバランスが良く食味良好でした。

◎最優秀賞	新見市長賞	吉川 岩夫 (草間)
◎優秀賞	岡山県備中県民局長賞	藤井 敏夫 (草間)
	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞	堀江 利明 (草間)
	岡山県農業協同組合中央会長賞	西本 利実 (草間)
	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	小林 寛 (草間)

(6) 令和2年度 新見市花卉共進会

令和2年9月16日にAコープあしん生活センターホールで開催され、26点(りんどう、きく、千日紅)の出品がありました。

◎最優秀賞	新見市長賞	小菊・口紅	谷村 悦子 (菅生)
◎優秀賞	岡山県備中県民局長賞		
		りんどう・ハイジラブ3	田辺 薫明 (新郷)
	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞		
		りんどう・ホワイトハイジ1	竹本 元則 (大佐)
	岡山県農業協同組合中央会長賞		夢野花農園
		りんどう・マイフェアレディ	後藤亜紀美 (哲西)
	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞		夢野花農園
		りんどう・ハイジラブ3	本田 光夫 (哲西)
		りんどう・エトピリカ	三好 充 (哲西)

新見の主な農畜産物



ホームページ
QRコード



Facebook
QRコード

岡山県備中県民局農林水産事業部
新見農業普及指導センター
〒718-0003 岡山県新見市高尾2400
担い手・農産班 TEL(0867)72-9177
園芸班 TEL(0867)72-9179
FAX(0867)72-0495

e-mail: niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ:

Facebook:

新見農業

検索